

仙台イチゴ塩害圃場における節水型かんがいシステムの実証試験

宮城県亶理町沿岸部一帯は特産の「仙台イチゴ」の一大産地でストロベリーラインとして親しまれてきましたが、大震災により9割のイチゴ農家が壊滅的被害を受けました。

本プロジェクトは、地元イチゴ農家が早急に栽培を再開しストロベリーラインの早期復興を目指して、これまでに蓄積した新技術を活用し、農地の除塩と節水、省エネ、省労力を図りつつ、これからの優良なイチゴ生産のための施設の整備、管理技術を現地で実証試験します。

実証試験の期間と内容：

- (1) 場所：宮城県亶理郡亶理町長瀬
- (2) 植栽概要：ビニールハウス（4.5mX60m）2棟、畝マルチ栽培、2条植／畝、4畝／ハウス、幅 0.3m／畝、植栽間隔@ 0.15m～0.30m

(3) 実証試験項目：

○平成23年度

- ・節水型散水方式としてドリップかんがいを導入し、従来使用されてきた多孔ホースと比較
- ・収穫、品質、施設経費比較
- ・散水方法（量）の違いによる塩分濃度変化の検証
- ・地下水塩分濃度変化調査

○平成24年度以降

- ・圃場内土壌の除塩状況調査
- ・シートため池による雨水利用システムの実証
- ・ドリップかんがいによる節水の実証
- ・ソーラポンプ、ソーラコントローラによる自動散水施設の設置

○平成25年度

- ・圃場内土壌の除塩状況把握
- ・水源としてシートため池による雨水利用システムの実証
- ・ドリップかんがいによる節水の実証
- ・ソーラポンプ、ソーラコントローラによる自動散水施設の設置
- ・試験の継続とまとめ

(4) 実施体制：

中野副会長を統括・試験部門リーダー、川西副会長を施設部門リーダーとして協力会社会員の協力により推進する。



図1 亶理町、山元町のイチゴ栽培施設分布と実証試験

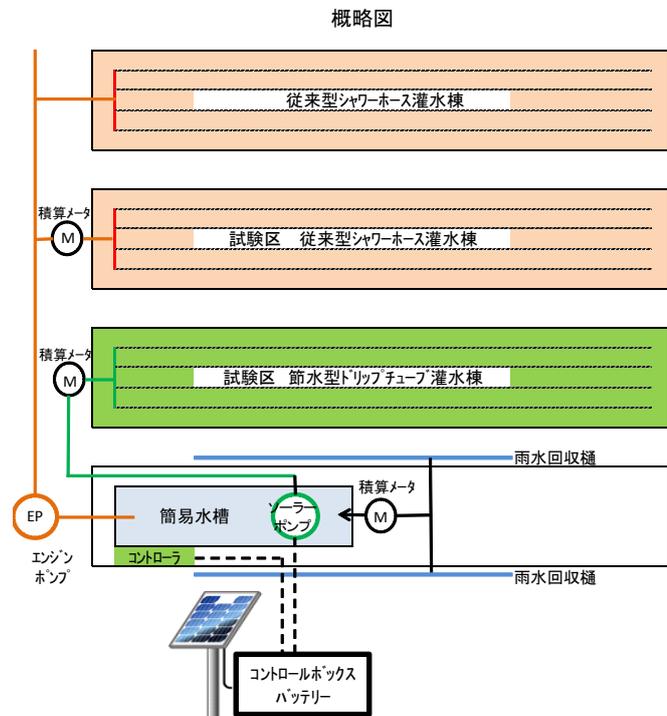


図2 試験ハウス平面図（計画）

試験結果

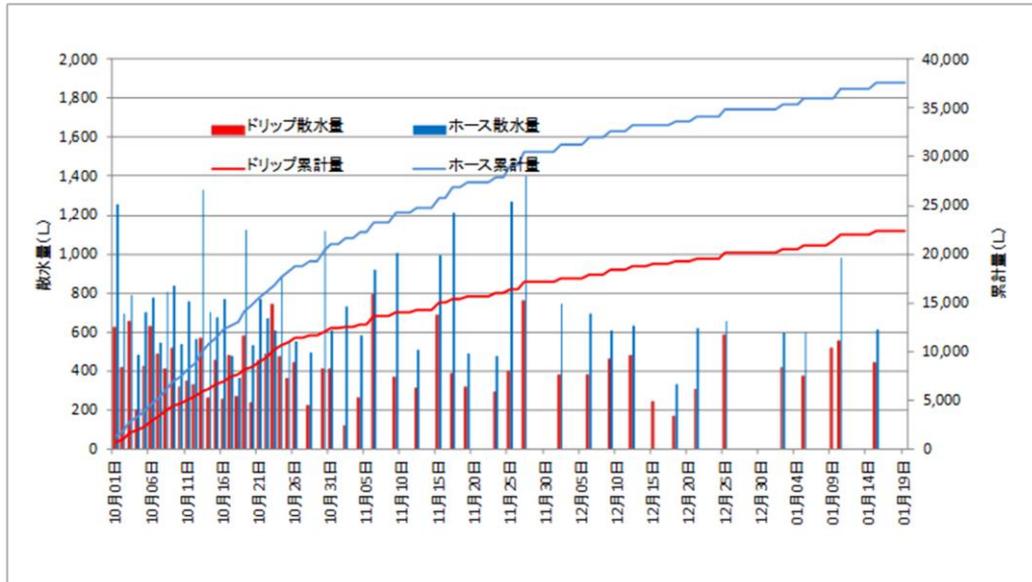


図3 ホースかんがいとドリップかんがいの灌水量比較

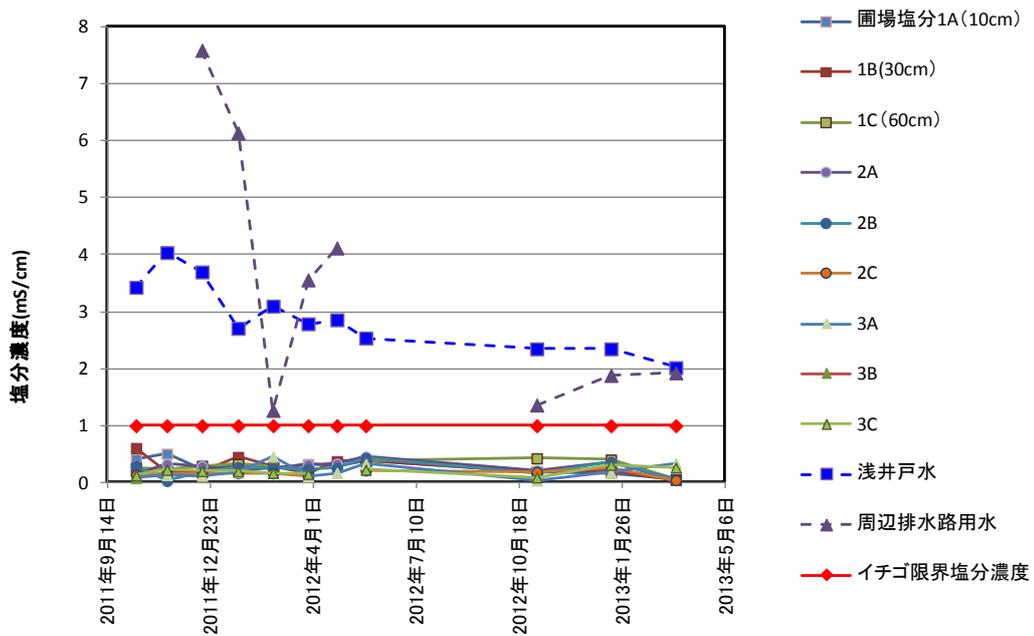


図4 圃場内土壌（ドリップかんがい圃場）及び周辺水域の塩分濃度変化



図5 現在の状況

